

2023年9月27日

山名 啓雄 メディア総局長 9月定例記者会見 要旨

職員の不正な経費請求について

(中嶋理事)

まず、報道局の職員による不正な経費請求について、報道担当として申し上げさせていただきます。

公共メディア・NHK の中核組織である報道において、公金である受信料の私的利用という、あってはならないことが起きました。

これから外部の有識者からなる第三者委員会のもとで調査が行われますので、報道としては現場部局として事実をきちんとお答えし、事実関係の解明に資するよう対応してまいります。

深くお詫び申し上げます。この度は大変申し訳ありませんでした。

1. 第50回日本賞について

(山名メディア総局長)

「第50回 日本賞」についてお伝えします。

NHKが主催する教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」は、1965年の創設以来、第50回の節目を迎えます(※)。毎回、そのときどきの時代性や社会課題などを色濃く反映した作品を集めた、世界でも類を見ない教育コンテンツだけを対象とするコンクールです。1971年の第7回ではあの「セサミストリート」がグランプリを獲得しています。当時の先進的な表現技法を駆使し、人種差別や経済格差に苦しむ子どもたちにテレビを通じて学びを届けようとする姿勢が評価されました。

(※1965～1973年は毎年開催、1975～1991年まで隔年、その後毎年開催)

今回は55の国と地域から寄せられた391の作品と企画のうち、34本がファイナリストに残りました。ウクライナの戦争が10代の若者にもたらす影響、ティーンエイジャーの性の悩み、多様な家族のカたちなど、いまの時代を反映した作品が多く選ばれました。本格的なドキュメンタリーやドラマなど、幅広い世代に向けた高品質な作品が揃っています。

また、第50回を記念して、これまで3年間、授賞式の司会を務めていただいたハリ一杉山さんがPR大使に就任しました。ことしは司会だけでなく、関連番組などにもご出演いただきます。

(安田日本賞事務局長)

ことしのファイナリスト作品の中から代表的なものをご紹介します。

0歳～6歳の幼児向け部門は、多様な家族の形があることを、トークや歌で楽しみながら学ぶカナダの子ども番組「フェイとフラツフィーのゆかいなショー 家族っていいね！」など7作品です。

6～12歳の児童向け部門は、思春期に起こる体の変化について子どもたちに教えるコロンビアのアニメーション「ギエルミーナとカンデラリオ はじめての月」など7作品です。

12～18歳の青少年向け部門は、性暴力の問題から目をそらそうとする社会に抗議するバングラデシュのドキュメンタリー「みんなで声をあげよう 性暴力についての沈黙を破るために」や、それぞれ事情を抱えたマイノリティーの若者4人がエイリアンのアバターとなってVR空間で交流し、互いの背景や価値観を理解していく、NHKの「プロジェクトエイリアン」など7作品です。

18歳以上の一般向け部門は、現代の若者がいかに自らのジェンダーに向き合っているかを調査するベルギーの「ジェンダーランドのサラ」など7作品です。

以上4部門のファイナリストから、10月3日に各部門の最優秀賞が選ばれ、さらにその中から11月の映像祭で「グランプリ日本賞」が選ばれます。

もうひとつの部門は、企画部門です。予算や機材などの制作条件が十分でない国・地域で、すぐれた教育番組の企画が実現するよう、賞金で支援することを目的とした部門です。ケニアやパキスタン、ウクライナなどから6本の企画が選ばれています。こちらの賞は「グランプリ日本賞」と合わせ、11月の映像祭で発表します。

つづいて「日本賞映像祭」についてご紹介します。11月20日(月)から23日(木・祝)の4日間、東京・原宿にて映像祭を開催し、受賞作品を上映するほか、それらの制作者と審査員の皆さまを海外から招いて、来場者とのディスカッションや交流会を行います。最終日にはグランプリ日本賞が決まります。なお、映像祭のすべてのイベントは、一般の方も無料で参加いただけます。近日中に受付を開始しますので、詳細は日本賞ホームページをご覧ください。

今回、ファイナリストに残った28作品は、11月13日(月)から12月3日(日)まで、日本賞特設サイトでどなたでもご覧いただけます。作品はいずれも英語版ですが、これらのうち最優秀賞や優勝賞などの受賞作品9本(10月3日に発表)は、11月20日以降、日本語字幕付きで視聴いただけます。グランプリを含む受賞作品は今年度内にEテレでも放送予定です。

記者の方々については、特設サイト公開前でも希望があればいつでも試写いただけるほか、通訳付きで制作者のオンライン取材も調整できます。また、11月の映像祭も、授賞式以外のディスカッションなどもご取材いただけますので、ぜひご検討ください。

最後に、特集番組のご紹介です。映像祭の開催前日、11月19日(日)にEテレで、昨年、第49回グランプリ日本賞を受賞した作品を放送します。カナダ制作のアニメーション映画「ドゥーニャとアレppoのお姫様」で、日本初放送です。内戦によって祖国シリアを追われ、難民となった6歳の少女ドゥーニャの旅路を描く、希望と勇気にあふれる物語です。現代社会の難題と向き合い、戦争の幼い犠牲者たちへの理解と共感を育むという点が評価され、グランプリに選ばれました。この作品もぜひ、ご覧ください。

(次ページあり)

2. 第74回 NHK 紅白歌合戦について

(山名メディア総局長)

大みそかの紅白歌合戦についてお話しさせていただきます。

74回目となることしの紅白歌合戦は、NHKホールをメイン会場にお届けします。こ
としも視聴者のみなさまに楽しんでいただけるような、希望あふれる紅白をお届けし
たいと考えています。

放送時間は、午後7時20分から11時45分まで、総合テレビ、BSプレミアム4K、B
S8K、ラジオ第一で放送いたします。司会者や出場歌手などは、決まり次第お知らせ
いたします。

観覧に関しましては、10月5日(木)午前11時からWEBで募集を始める予定です。
詳細は、10月5日(木)に、NHKのホームページなどで発表します。

来る2024年が明るい年となることを願いながら、一年を締めくくるにふさわしい
紅白にしたいと思っています。

(以上)